

2023年度 東京蜘蛛談話会総会例会

1. 日時 2023年4月30日(日) 10時より(開場9時30分)
2. 場所 東京環境工科専門学校 〒120-0022 東京都墨田区江東橋 3-3-7
JR 総武線 東京メトロ半蔵門線 錦糸町駅南口から徒歩3分
3. 連絡 当日は、東京環境工科専門学校の電話が使用できないので、緊急時には以下に連絡ください。
加藤輝代子 090-7012-6458 初芝伸吾 090-6156-8378
4. その他 プロジェクター、OHP 等用意いたします。
5. 講演をご希望の方は、演題と使用希望機材
(スライド、OHP、コンピュータ)
を事務局初芝までお知らせください。

〒186-0002 東京都国立市東 3-10-8 コンフィデンス高垣 105

有限会社エコシス 初芝伸吾

mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.jp

Tel : 042-501-2651 Fax:042-501-2652

- 錦糸町駅南口から徒歩3分です。



東京蜘蛛談話会 2023 年度採集観察会

1. 期 日： 第1回 2023年 5月21日(日) 第2回 2023年7月9日(日)
第3回 2023年10月15日(日) 第4回 2024年2月18日(日)
2. 場 所： 三輪の森(東京都町田市三輪の森ビジターセンター周辺)
3. 集 合： 集合 10:00
小田急小田原線鶴川駅北口
バス4番乗り場から、午前10時30分発「フェリシアこども短期大学」行きのバスで「妙福寺前」下車後、徒歩で移動します。
4. 世話人： 仲條竜太
TEL: 070-5578-1416

入退会は：

事務局 初芝伸吾 〒186-0002 東京都国立市東3-10-8
コンフィデンス高垣 105 有限会社エコシス
E-mail: hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

通信原稿投稿先：

谷川明男 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416
E-mail: dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp
通信の原稿締め切りは、4月末、8月末、12月末です。

KISHIDAIA 原稿投稿先：

谷川明男 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416
E-mail: dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

キシダイアの原稿締め切りは、6月末、12月末を目安とし、予算枠内のページ数まで先着順といたします。

東京蜘蛛談話会の会費は、一般 4000 円、学生 1000 円です。

(しばらくの間会費を値下げしておりましたが、2022 年度より元の水準に戻し、一般 4000 円、学生 1000 円といたしました。)

会費は郵便振替口座 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会へお願いします。

会費・住所変更は：会計担当 須黒達巳

〒150-0013 渋谷区恵比寿 2-35-1 慶應義塾幼稚舎

TEL: 080-5683-2765 E-mail: t.s.schlegelii@gmail.com

東京蜘蛛談話会例会

2022年12月11日 東京環境工科専門学校にて開催
プログラム

1. 開 式
2. 自己紹介とクモ類について疑問など四方山話
3. 講 演
 - (1) クモを狩るハチたち：田仲義弘
 - (2) 日本学生3人によるアジアクモ学会への挑戦～笑いと感動の1週間～：野口奨悟
 - (3) 日本のコモリグモ四選：庄司康治郎
 - (4) 西表島産ヤマジグモの1種～続編～：平松毅久
 - (5) ここまでわかった：日本産カラカラグモ科の多様性と生態：鈴木佑弥・平松毅久・立田晴記
 - (6) 樹上性カニムシとは：佐藤英文
 - (7) ベトナムおよびミャンマーのハラフシグモ亜目のクモ類：小野展嗣
4. 閉 式

第75回山口県美術展大賞

増原啓一

本年、第75回山口県美術展で大賞になったのは山口市の吉村大星さん。ホーロー製の水切りの上を歩き回っているミスジハエトリを、色鉛筆で描いた細密画でした。

作品は80号のキャンバス4枚の組作品、クモの大きさは20センチ程も。クモを題材にした作品に最高賞を与える公募展、最高です。



緒方さん追悼 採集の達人そして県別リスト

新海 明

日本のクモ同好者の中で、採集や観察するうえで特別な才能を持った方が何人か存在する・・・と思う。その中の一人として誰もが認める方が中部蜘蛛懇談会の緒方清人さんだった。

現在までにどれだけの新種や新記録種を見つけたことだろう。その詳細は他に専門家の紹介に譲ろう。初めて緒方さんにお会いしたのは、いつのころのことだったかは記憶にない。中部や三重の同好者と一緒にいたに相違ない。1980年代のことだと思う。

緒方さんと交わした最初の話は「鳥」の話だった。その頃には東京にも鳥とクモの調査研究を熱心にされていた高野伸二先生がおられたので、「鳥屋とクモ屋」は相性が良いのだと聞いたことがあった。サシバの渡りの地として渥美半島の先端があることを初めて見いだされたのが緒方さんだともお聞きした。野鳥の観察や発見で磨いたその観察眼は、クモの研究でもいかに発揮されていた。成果はクモ学会や中部蜘蛛懇談会の発表会で度々お伺いして感嘆したものだ。

世紀の変わり目のころに、私は谷川さんとクモの県別リストの作成を推し進めていた。それ以前に県別クモリストはクモ学会発行の著作物としていくつかの都府県で報告されていた。その頃の私のイメージとしては、長年にわたって当該県での綿密な調査を経て発表するもので、私のようなクモ網を調べている門外漢がこれにかかわることなど不遜なコトのような印象があった。さらに、この辺りは〇〇さんが、あの辺りは××さんが担当するので、よそ者は「その地を犯すべからず」というような暗黙の了解があった気がする。私は、大学に入学以来そのようなモノを気にしてはいけないと意識してきたので、こともあろうに、それまでにやったことのない「日本全国の県別クモリストの作成」を企てた。ひょっとすると、冷やかな反応や関わらないでおこうという方々も多いのではと予想したのだが・・・まったく違っていた。全国各地のクモ同好者から次々と大切な文献の提供や採集情報もたらされた。それ以前にも何度か感じてはいたものの、同好者のつながりの強さを改めて思わされたのだ。

この作業をするうえで、私の頭の中では二つの県の賛同が得られるかがポイントだった。一つは三重県で、他のもう一つが愛知県だった。どちらも県別調査の進捗状況が他県よりも抜きんでいたからだ。さらに私が危惧した点は、これら2県はすでに500種類以上のクモリストを完成させていたので、私の無謀ともいえる試みに賛同していただけるだろうか・・・と思えたのだ。だがしかし、この心配は杞憂に終わった。どちらの県の関係者もすぐに賛同していただいたのだ。この中のお一人が緒方さんだった。

中部蜘蛛懇談会の総会は毎年2月11日だ。私はかなりの頻度で出席しているが、ここへの参加を促してくださったのも緒方・須賀先生のコンビだった。特別講演なるものを企画していただき、遠方からの演者の参加を容易にしてくれた。

緒方さんのお姿を見た最後は、2020年2月に開催された中部蜘蛛懇談会の総会だった。前年までの様子と違って信じられないような弱々しさに驚いてしまった。いつもお会いするたびに、朗らかな明るい声で挨拶される印象が強かったので、どうなされたのだろうか・・・と心配した。そして世界中が新型コロナで閉ざされたその年の会報で会長職を辞されたことを知った。以後はお目にかかることはなく、2023年1月2日に訃報が届いた。

「明さん。遠くからわざわざ来てくださって、ありがとう」。お会いするたびに聞いた緒方さんの明るい声を忘れることができない。ご冥福を祈るのみである。